病害虫発生予察指導情報（追加情報）

（ナシ・黒星病　No.2）

令和２年５月２２日
鳥取県病害虫防除所

１．情報の内容

５月下旬現在、ナシ黒星病の発生量が例年に比べて多い傾向であり、今後も発生量の増加が見込まれます。特に‘新甘泉’や‘幸水’では、今後の感染により収穫果被害が助長されるため、防除を徹底する必要があります。

２．情報の根拠

（1）　５月中旬に実施した県内１３地点の巡回調査の結果、果そう葉における平均発病葉率は平年に比べてやや高く、平均発病果率は平年に比べて高かった。

（2）５月以降、県予察ほ場（園芸試験場）における果そう基部からの分生子の飛散数が、平年に比べてやや多い傾向で推移している。

（3）向こう１か月の気象予報（５月１６日発表）から、今後、ナシ黒星病の発生にやや好適な条件になると予想される。

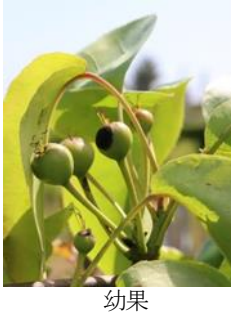
３．防除上注意すべき事項

（1）発病した葉や幼果等（図１）は伝染源となる。定期的に園内を見廻り、発病部位を見つけ次第切除して園外処分する。

（2）赤ナシの有袋栽培では、袋掛け直前に必ず薬剤散布を行って速やかに袋掛けを行う。特に、‘新甘泉’や‘幸水’は６月以降にも果実が感染し易くなるので、６月上中旬を目安に袋掛けを終える。

（3）現在発生量が多い園では、防除効果の高いＤＭＩ剤（アンビルフロアブル１，５００倍液、スコア顆粒水和剤４，０００倍液など）を追加散布する。ＤＭＩ剤耐性菌の発達を避けるため、これらの剤の散布時には保護殺菌剤（ベルクートフロアブル１，５００倍液、チウラムフロアブル（チオノックフロアブルまたはトレノックスフロアブル）５００倍液、有機銅フロアブル（キノンドーフロアブルまたはドキリンフロアブル）１，０００倍液など）を混用することが望ましい。

（4）定期防除の散布間隔が長くならないように注意し、降雨量が多い場合は追加散布を検討する。


幼果

果そう基部

葉身

葉柄

図１　ナシ黒星病の病斑